



表 8.1 物理性蕁麻疹の種類と特徴



4) コリン性蕁麻疹 cholinergic urticaria

運動や入浴、緊張などで体温が上昇し、発汗を起こすような状態に至った際に、直径3～5 mm程度の小さな膨疹が出現する（図 8.5）。発汗障害や後天性無汗症を伴うことがある。発汗をつかさどるアセチルコリンの関与が考えられているほか、自己汗成分に対する I 型アレルギーの関与も指摘されている。

2. 血管性浮腫 angioedema



同義語：クインケ Quincke 浮腫（Quincke's edema）、血管神経性浮腫（angioneurotic edema）

Essence

- 血管透過性亢進による浮腫。真皮下層～皮下脂肪組織で生じた蕁麻疹。痒痒は通常ない。
- 病因が非遺伝性と遺伝性に分けられる。
- 口唇、がんけん 眼瞼に好発。
- 非遺伝性のものは蕁麻疹の治療に準拠。

症状

限局性の浮腫が突然生じ、通常2～5日間持続する。大きさはさまざまで、ときに直径1～10 cm大を呈する。境界不明瞭で痒痒は通常伴わず、むしろ灼熱感を訴えることが多い。蕁麻疹と同様どこにでも出現するが、眼瞼、口唇、舌、手足に生じやすい（図 8.6）。通常の蕁麻疹を伴うこともある。ときに咽頭部、鼻腔粘膜、気管支粘膜、消化管粘膜などに浮腫を生じ、アナフィラキシーショックに陥ることがある。

a

b

図 8.5 コリン性蕁麻疹（cholinergic urticaria）
a：数 mm～1 cm 大の軽度隆起性の膨疹を多発性に認める。b：発汗テストを行うと汗腺部に一致して皮膚疹とともに汗が出ていることが確認される。

遺伝性血管性浮腫の分類

MEMO

好酸球増多を伴う血管性浮腫

MEMO